

2024年10月30日

各 位

東京都千代田区内神田二丁目12番5号
株式会社ビーマップ
代表取締役社長 杉野 文則
(東証グロース：4316)
問合せ先：取締役経営管理部長 大谷 英也
(電話03-5297-2181)

ビーマップ、Wi-Fi HaLow と LTE を搭載した IoT ゲートウェイ「EAP112」の販売を開始

matterコントローラーを搭載予定
広大な敷地の長距離通信からスマートホームまで、EAP112がIoTの扉を開きます

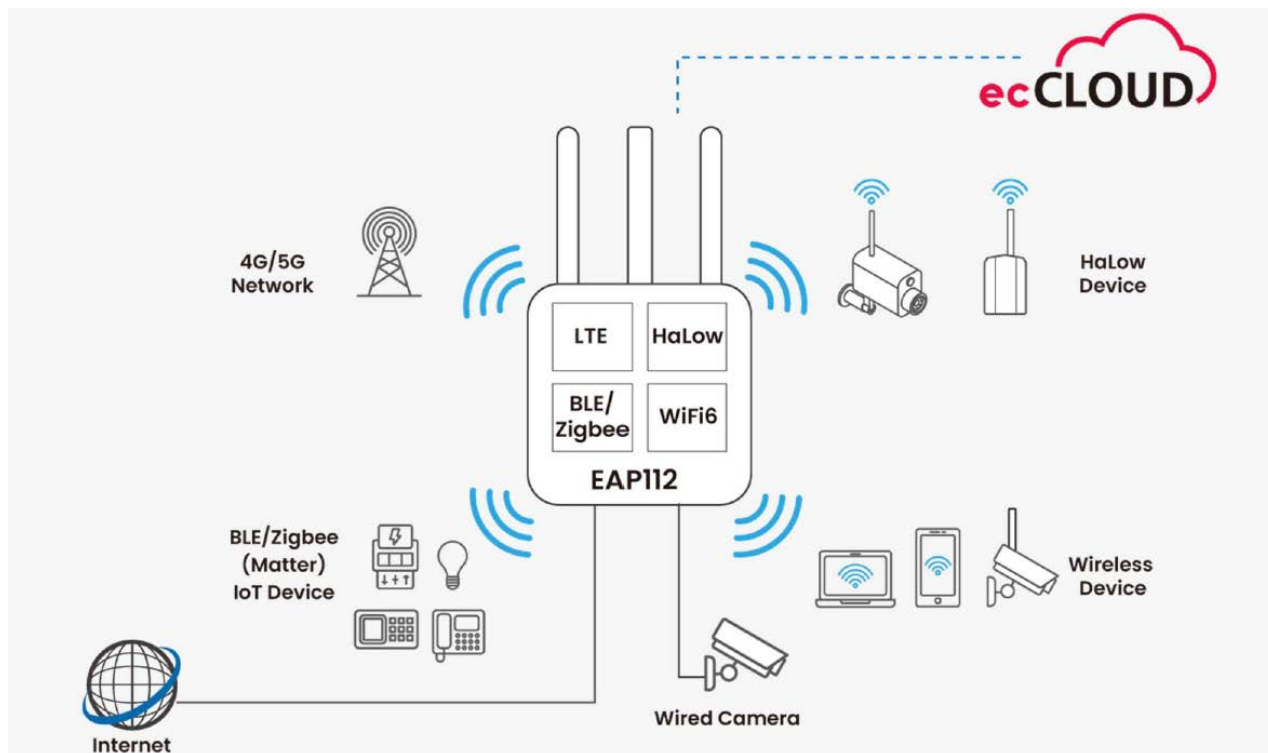
株式会社ビーマップ(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:杉野文則、以下当社)は、Wi-Fi HaLowを搭載することでIoT機能を強化したWi-Fi 6アクセスポイントの新製品「EAP112」の販売を開始いたしましたのでお知らせします。

「EAP112」は、長距離通信が可能なWi-Fi HaLowとLTEバックホールを搭載することで、IoT機能を強化したエンタープライズグレードの屋外対応Wi-Fi 6アクセスポイントです。加えて、matterコントローラーの搭載(※1)により、スマートホームのコントローラーとしても機能します。また、IP65等級の防塵・防水性能に加え、使用温度範囲が-30~50℃と広く、優れた耐候性を備えています。これらの機能により、これまでWi-Fiではカバーが難しかった広大な敷地や、厳しい自然環境において、IoTソリューションの構築を可能とします。



「EAP112」は、CES 2024(米国ラスベガスで1月9日～12日開催)において、当社のビジネスパートナーであるEdgecore Networks Corporation (台湾、President: Andy Wu、以下Edgecore Networks) と、Wi-Fi HaLowのシリコンベンダーであるMorse Micro (オーストラリア、CEO: MICHAEL DE NIL) により発表されました。その後、WIRELESS JAPAN 2024(5月29日～31日開催)、およびCEATEC 2024(10月15日～18日開催)において、当社より日本国内での販売を表明していました。

■IoTソリューションの新たなステージを提供するEAP112



※「EAP112」の概念図

「EAP112」は、当社が販売するWi-Fiアクセスポイントとしては、初めてWi-Fi HaLowを搭載した製品です。Wi-Fi HaLowは、920MHz帯を使用することで通信距離を約1kmと飛躍的に高め、最大20Mbpsの通信速度を実現するIoTに特化したWi-Fi規格です。この長距離通信と高速性を生かすことで、従来のLPWAでは不可能であった画像や映像など大きなデータの伝送が可能で、リアルタイム性が高く、大きな情報量を求められる、新たなIoTの応用分野を開拓する能力を備えています。

また、「EAP112」は、4G LTEのバックホール機能を搭載しており、LANケーブルの敷設が難しい場所への設置が可能で、設置の自由度が格段に向上します。さらにIP65等級の防塵・防水性能を備え、-30～50℃の広い温度範囲での利用が可能。さらに「EAP112」はWi-Fi 6の高速・大容量通信にも対応しており、IoT用途に限らず屋内外のWi-Fiアクセスポイントとしてもご利用いただけます。

【EAP112の特徴】

- ・ LPWAの通信方式であるWi-Fi HaLowを搭載し、1kmの飛距離と最大20Mbpsの通信が可能
- ・ 2.4GHzと5GHzのWi-Fi 6を搭載し、通常のWi-Fiアクセスポイントとして利用可能
- ・ LTE CAT6によるバックホール通信に対応（LTEを搭載しないモデルも選択可能）
- ・ IP65等級の防塵・防水性能と-30～50℃の広い温度範囲
- ・ matterコントローラー機能を搭載可能(※1)
- ・ PoEまたはオプションのDC電源による給電が可能
- ・ 壁マウントブラケットを同梱。オプションのポールマウントブラケットを用意

■ matterコントローラーとしても機能

「EAP112」はスマートホームのためのIoT共通規格であるmatterのコントローラー機能の搭載(※1)を予定しています。



※CEATEC 2024 会場で「EAP112」を展示

無線通信規格標準化団体（Connectivity Standards Alliance: 略称CSA）が策定したmatterには、既にApple、Google、AmazonをはじめとするIT企業280社以上が参加を表明。これらの参加企業が提供するスマート家電はメーカーの垣根を越えた連携が可能となり、スマートホームの普及に向けて大きな弾みとなっています。

また、当社では、電力使用量をAIにより分析し、高齢者の生活を見守る「おうちモニタ」のサービスを開始しています。「EAP112」へのmatterコントローラーの搭載により、見守りセンサーとの連携が強化され、さらに質の高い見守りサービスが実現されます。当社は、「おうちモニタ」と「EAP112」の提供を通して安心・安全・快適なスマートホームの普及に貢献します。

※1…今後ファームウェアのアップデートによりmatterコントローラー機能を提供予定です

■ 「EAP112」の詳細仕様につきましては、下記のリンク先をご参照ください

<https://www.wi-fi.bemap.co.jp/eap112>

■ 「EAP112」をはじめとする当社取扱のWi-Fi関連製品については、下記リンク先をご参照ください

<https://www.wi-fi.bemap.co.jp/>

■ 「EAP112」関連のプレスリリース

ビーマップ、Wi-Fi HaLowとMatter、LTEを搭載したWi-Fiルーター「EAP112」を今夏に発売
(2024年1月31日発信)

https://www.bemap.co.jp/library_file/cms_file/24020101132.pdf

■ 「おうちモニタ」関連のプレスリリース

大家さん、家族も安心！電力データやWi-Fiを活用した「安否確認」、「健康管理」などシニアや単身家族の健康を見守る3つのサービス開始

(2023年9月21日発信)

https://www.bemap.co.jp/library_file/cms_file/24050701148.pdf

東京大学、東京理科大学発のベンチャー企業と協業で電力データを活用した見守りサービス用のAIを開発

(2024年4月23日発信)

https://www.bemap.co.jp/library_file/cms_file/24042301144.pdf

■ Edgecore Networksについて

Edgecore Networksは、台湾に拠点を置くAccton Technology Corporationの完全子会社です。Edgecoreは、世界中のチャネル パートナーを通じて、SMB、エンタープライズ、データ センター、サービス プロバイダーなどの顧客に対して情報の流れや接続の強化に貢献するネットワーク ソリューションを提供します。詳細については、<https://wifi.edge-core.com/contact> までお問い合わせください。

■ Morse Microについて

Morse Microは、オーストラリアのシドニーに拠点を置き、世界中にオフィスを構える Wi-Fi HaLow ファブレス半導体の大手企業です。世界有数の Wi-Fi HaLow 企業として、次世代の IoT ワイヤレス 接続ソリューションの先駆者です。Morse Micro は現在、Wi-Fi Alliance および FCC 認定の MM6108 量産シリコンの出荷を開始しています。これは、市場で入手可能な最速、最小、低消費電力、最長の通信距離を誇るWi-Fi HaLowチップです。詳細については、<https://www.morsemicro.com/> をご覧ください。

本件に関するお問い合わせ先

株式会社ビーマップ ワイヤレス・イノベーション事業部

電話：03-5297-2263

お問い合わせフォーム：<https://www.bemap.co.jp/contact/contact.php>

ビーマップは、交通、通信、メディア、流通、外食と
社会のインフラになるサービスを高度な技術で支えています。

